

New Normalでのマングローブ植樹の継続について

2021年6月19日、ポブラシオン、バディアン、セブにて(セブの南西地域)人民の組織であるDungguan-Atob Fisherfolk Association (DAFA)とLady Riders Club Philippines- Cebu Chapter (LRCP-CC)にも参加頂き、ポブラシオンのバディアンにて苗床で育てたマングローブの植樹を行いました。場所はセブ市からおおよそ104km離れたところとなります。合計1080個体のヤエヤマヒルギ(高さ約90cm)が植えられ、植樹活動はアブナー バルヌエボ博士の指示のもと行いました。植樹地はカネパッケージグループの会社のCorporate Social Responsibility (CSR)プログラムと協力して、マングローブ林再生のためにthe Department of Natural Resources (DENR) Region 7とTa?on Strait Protected Seascape (TSPS)によってDAFAに割り当てられた指定エリアの一つです。

植樹を始める前に、バルヌエボ博士からマングローブと地域社会、そして生育場、避難所、食糧源などが大きくマングローブに依存している海洋生物との関連性について簡単にお話がありました。博士はマングローブは成長と生存のためには特定の条件が必要となるため、どこにでも植えることができないことを繰り返し伝えておりました。この説明の後、植樹地に進み、The lady riders groupのほとんどの方たちは、マングローブの再植樹に焦点を当てながら地域社会へ代替えの生計を提供しているnon-government organization (NGO)と一緒に初めての植樹を暑さも気にならないほどに熱心に活動してくれました。

植林活動終盤では、KPGreen Earthチームよりthe Lady Riders Clubの代表であるBernice Teves氏に感謝状を贈呈しました。またthe bikers clubへは環境に配慮しKPGreen Earthチームと同じ目標に向かって参加していただいたこと称えました。この活動は、森林資源の保護と保全、貧困の削減、食糧安全保障の促進、気候変動の緩和と適応の改善など、フィリピン政府の国家緑化プロジェクトの目的に合致した活動です。

